

こども新聞
週刊

がほピョンプレス

毎週日曜発行
2025 9/21

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



きょうのテーマ

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

仙台空襲80年 みんなで平和考える

ニュース



こども記者が取材

語り部の広瀬さん（左から4人目）から戦時中の仙台の様子を聞く小中学生記者



80年前の7月10日未明、アメリカ軍の爆撃機

B29が仙台市に焼夷弾を投下し、多くの命が犠牲になりました。仙台市の小中学生記者5人が、市戦災復興記念館を訪れ、仙台空襲の経験者取材したよ。みんなも平和について考えてみてね。（8面に関連記事）

街の中心部 焼け野原に

記者は宮城野中2年の石川蒼太さん（14）、聖ドミニコ学院小6年の葛原悠生さん（11）、袋原小4年の南條景太郎さん（10）、鶴谷中3年の兵藤くるみさん（14）、同1年の兵藤このみさん（12）です。みやぎ生協（仙台市）の子ども平和新聞プロジェクトの一環で取材に取り組みました。



「焼夷弾が、夕立のようにはざーっと音を立てて落ちてきたの」。記者たちを前に、語り部の広瀬喜美子さん（92）＝青葉区＝が当時の様子を語りました。宮城高等女学校（現在の宮城学院中・高）1年だった広瀬さんは、広瀬川近くにある自宅で空襲に遭いました。防空壕は市中心部から押し寄せた避難者で使えず、近くの桜の木の下に伏せて爆撃が静まるのを待っていたそうです。

この空襲で、仙台市中心部の500万平方メートルが焼け野原となり、約1400人が亡くなりました。広瀬さんは「当時を振り返ると涙が出る。あんな思いを皆さんに経験させたくない」と訴えました。



講話の後、広瀬さんの案内で市戦災復興記念館を見学しました。館内は、焼夷弾の原寸大模型や防空壕など、戦時中の様子を伝える資料が数多く展示されています。こども記者の関心を集めたのが、戦時下の食料を紹介するコーナー。食料不足のため、コメの代わりに芋や麦を食べることが推奨されていた。「おやつは梅干し。砂糖やキャラメルは手に入らなかった」と振り返る広瀬さんの話に驚きながら、記者たちはほとんどや雑草入りご飯のレプリカに興味深く見つめていました。

この日 何の日

◇21日（日）国際平和デー

平和への関心を高めてもらう日にしようと、国連が定めました。米ニューヨークの国連本部では毎年、日本から贈られた「平和の鐘」を国連事務総長が鳴らし、世界各地の紛争解決を呼びかけます。

きょうの紙面

- 2面 やさしいにほんごニュース
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 こども記者が取材